六郷渡

〔夫木和歌抄二十六〕石西渡武藏　いはせの渡

風さむみ冬はいはせのわたりにてをちの舟まつをほ誤恐とぞわりなき

〔遊嚢膝記四〕六郷渡ハ、多磨川ノ下流、荏原橘樹兩郡ノ境ナリ、川ノ北方ニ六郷村アリ、ヨツテ川ノ名トス、

〔江戸名所圖會四〕六郷渡

八幡塚の南にあり、此川は多摩川の下流にして、八幡塚より河崎の驛への渡しなり、昔は橋を架せしが、享保年間、田中丘隅といへる人の工夫により、洪水の災を除ん爲に、橋を止めて船渡にせしとなり、

〔元祿十五年走湯行記〕六郷の渡に著く、過し貞享四子の春、相模の浴に行しころは橋の有けるが、數度の滿水に流れて、今は渡船になりぬ、

〔元祿三年戸田他石記〕六郷川

漾々水流通二海潮一、旅人來往奈無レ橋、雨晴昨夜滂沱後、水漲郵船兩岸遙、

〔遊嚢膝記四〕六郷渡ハ、橋ノ權輿詳ナラズ、永祿ニ其名見ユレバ、北條家ノ盛時ニ掛初ケルニヤ、海道四大橋ノ一ト聞エシモ、貞享ニ流亡シテヨリ、永ク此渡トナリ、今ハ橋柱サヘ朽果ヌ、濱名長柄ト同日ノ譚ナルベシ、

矢口渡

〔東海道名所圖會六〕矢口渡口

六郷の河上にあり、矢口村の農作のわたし也、

〔太平記三十三〕新田左兵佐義興自害事

十月〇延文三年十日ノ曉ニ、兵衞佐殿ハ、忍テ先鎌倉へトゾ被レ急ケル、江戸竹澤ハ、兼テ支度シタル事ナレバ、矢口ノ渡リノ船ノ底ヲ二所ヱリ貫テ、ノミヲ差シ、渡ノ向ニハ、宵ヨリ江戸遠江守、同下野